



技術士だより

(社) 日本技術士会九州支部・九州技術士センター冬季号<第62号>(平成16年12月15日発行)

巻頭言

松無古今色 竹有上下節

九州支部副支部長 是永 逸生(機械、総合技術監理・北九州)

九月の初旬の「第2回中国長江三峡ダム視察研修会から即、札幌開催の技術士全国大会と続いた。さらに学協会や自治体による各種セミナーに並行して、CPD研修会や日韓技術士会議が開催された。

これらの催しに参加して特に印象に残った点は次の2点である。

- (1) ベテラン技術士の先生方の参加が多く、非常に元気で活発・熱心である事
- (2) 青年技術士を一として若い集団の活動が台頭してきた事

ベテランの先生方に関しては、卒寿を過ぎながら常時熊本から出席していただいている大先輩を始め、喜寿を超えた先生方が質疑に参画するだけでなく肉体的にも若い事に感心している。古希も“古来稀なり”ではではなくなっているのだろう。

北九州地区の月例技術研修会ではベテランの先生方に「卓話」をお願いしている。

今まで歩いてこられた立派な足跡を気軽な形で若い技術士達に話していただいている。

広い意味の技術伝承であり、好評である。今後とも多くの先生方が「自分」を若い技術士達に語っていただきたい。これは技術士倫理教育にも繋がると考える。

一方、若い集団の台頭での特記事項は第7部会(青年技術士部会)の創設である。

技術士法の改正により、若い技術士が多く誕生する形になるが、この動きに対して大きくはばたき始めている。

今までの技術士は自分の業績を積み上げた後に実務経験として纏めて技術士資格を取っているが大部分が産業界では「助言者」であった。今から多く誕生するであろう若い技術士は「助言者」ではなく、産業界の「中核者」として活躍する事が期待されている。

改正技術士法の最重要点の一つである「公益確保の責務」を修習段階で身に付け、実務を経験しながら「中核者」に成長していくのがこれからの技術士の姿と考える。

若い集団はこの動きを的確に把握して積極的に動き始めている。

先日の札幌全国大会の結果をフジサンケイが次のように掲載している。

「技の連携を担う青年技術士」と題して、技術部門を問わない45歳未満の技術士が「青年技術士の役割～時代を開く技術」について意見交換した結果、「技術は無から生まれぬ」として、今までの技術をつなぎ合わせる事(技の連携)に新たな役割を見出し、来年の博多大会でさらに議論を深める事になった。

これの取り纏めは九州の第7部会であった。既に十分に機能を始めた全国区である。

先日、第1回目運営委員会を傍聴させてもらったが企業内技術士ということで18時半集合。規約、計画、予算が決められ、多くの斬新な意見も出され頼もしい限りであった。

九州支部では新しく“第2ステップCPD活動”を大規模に開始した。

この委員に第7部会から参画願っているが、双方が今後の技術士会で占める役割は非常に大きいと考えている。遠慮なく若い力を存分に発揮していただきたい。

この若い力を発揮する上で表題の句に留意していただきたい。“松に古今の色なく 竹に上下の節有り”と

読む。“若い力を存分に発揮することは大切な事であるが、歴史や先輩という「節」も忘れてはいけない”
と言う意味である。

青年技術士部会でも先輩の「卓話」を聞く機会も来る事を期待して。

私の提言

技術士として個人の活動の場は？

久保川 孝俊（建設、総合技術監理・福岡）

私の所属する業界は競争のない世界でしたので、技術士の資格は必要ありませんでしたが、折角、技術士の仲間に入れて貰ったわけですから、技術士としての考え方や他の業界の動き・最新の技術が理解できる場を利用したいと思いました。

そこで、九州支部や技術士センター及び部会で主催される会合に出来るだけ出席するようにしていましたが、殆どの出席者がご年輩の方、且つ何時も同じ顔。若い人ましてや女性がない！ことから参加しても違和感があり、身の置き場がない事が多々ありました。

九州支部に関わりのある若い方に話を聞くと、「技術士会の手伝いをすると、実務は若手に押しつけられ、負担ばかり増える」「方針に従い進めていく段階でいつの間にか変更となり、今までの動きが徒労となることが多い」等、会社での負担が多い若手にとって参加できない若しくは参加しても面白くない状況であるのを耳にします。

ご年輩の良識のある方には失礼とは存じますが、年を取ると頭が固くなり変革は好まず、立場の低位・年下・元部下などの方々の意見に耳を貸さず、自分の意見を押しつける傾向になると云われています。また、話が長く、繰り返しが多くなり会議などでも時間を超過する等々、老害が蔓延していたようです。ただし、現状では風通しが良くなって来ているように感じてはきておりますが。

技術士会に入ってもメリットがないと云われますが、待っていても変化はないと思いますし、内部に入らないと改革も出来ないと思います。どの様な集まりでも女性・若手の参加がないと発展しないと云われますが、現状のままでは、女性会員や若手技術士が参加できないと感じています。

これを、打破するためには、九州支部の指導者の

方で

- ・支部や部会などの中で若手が活躍できる様な自由参加と多くの参加者で自主運営する方策は
 - ・若手の独立・企業内技術士のボランティアの限界を考慮した作業分担のあり方は。任期は
 - ・会の具体的活動内容等を知らせ、より多くの若手会員が活動を理解し手伝える環境は
 - ・参加したくても、時間的・距離的制約により参加できにくい若手会員への対応は。
 - ・その他、支部とセンターとの棲み分けの必要性は。部会・地区との有機的連携は
- 等々を解決する事が重要と考えますが、如何でしょうか。

「参加の機会は十分にあるので、自主的に参加すれば受け入れる」とのお叱りを受けるかも知れませんが、何をしたらよいか分からない、何をさせられるか分からない、させられることが年毎に増えていくのではないかと、何年間もさせられるのではないかと等々、また、方針が決まって進めていても、横槍が入り自主的にやらせて貰えないのでは等、色々な心配が出てきます。

会社組織の中で技術畑を離れ10年近くなりますが、技術者として曲がりなりに技術の話について行けるのは、サロンの技術士の集まりに出させていただき、最近の話題に接することが出来る事にあると、思っています。私と同様に、何かをしたいと思っている若い方は大勢いると考えられます。

技術士会は、専門的応用能力を有する技術者集団ですので、全体最適の運営は非常に困難とは思いますが、今後多くの若手技術士が増える時代となってきておりますので、これらの方々が興味を持って参加できる技術士会・九州支部の活動並びに発展の実現を期待し、良策をお願いいたします。

理事会等 概要報告

(社)日本技術士会 理事 小出 剛 (農業・福岡)

前号(9月15日付・技術士だより)から本号までに、9月理事会、9月29日臨時総会、11月四役・常設委員長会議、11月17日理事会と主要な会議がありますが、11月理事会は本原稿締切りに間に合わない為、理事会に先駆けて1週間前に開催された四役・常設委員長会議の概要を報告します。今回も重要事項もり沢山の報告となった事をご容赦下さい。

I. 平成16年度第3回理事会

(平成16年9月8日)

(審議事項)

1. 「技術士ビジョン21」アクションプランの作成方針について

ビジョン21に示した各項目の検討実施に当たり次の方針によりアクションプランを作成し対応を図る。

1) 組織・制度に関わる課題

「組織・制度改革本部」を新たに設置し、対応する。

2) CPDに関わる事項

新たに設置した「CPD証明特別委員会」で対応する。

3) 技術士の位置づけ等に関わる課題

ビジョン策定特別委員会の中に3つのワーキンググループを設置して対応、人選は同委員長に一任。

4) 国際化に関わる課題

11月理事会までに対応組織の検討を行い、別途付議する。

5) その他の課題

関係する各常設委員会が分担し、対応する。

以上の原案どおり承認された。

2. 委員会設置に関わる細則の変更について

全国大会開催に関わる委員会など理事会において設置が承認された委員会を細則の中に組み入れる。原案通り承認された。

3. 「組織・制度改革本部」の設置について

ビジョン21で示した、組織率50%の実現を図る施策、そして会員数の増強に合せた組織・制度のあり方を抜本的に改革するためのもの。本部長には会長が、委員人選については会長一任となった。原案通り承認された。

4. CPD証明特別委員会委員・顧問の委嘱について前号報告の委員会委員等の委嘱が次のとおり承認された。

技術士会員；事業委員会から3名、政策委員会から1名、その他1名(内2名は理事)。

関係学協会；地盤工学会、日本機械学会、土木学会、電気学会から各1名、追加予定あり。

顧問；池田駿介・東工大教授。

5. 平成18年(55周年)技術士全国大会の開催運営に関わる委員会委員の委嘱等について

東京での開催に当り、次のとおり委員が委嘱された。各常設委員会選出；11名、各部会選出；7名

(九州支部からは事業委員会選出の是永逸生先生)

6. 理事選挙における投票制度及び役員選挙

運営関連規定の変更、制定について

会員数増大に対処し、現行制度の不備を改善したいとして、政策委員会では、アンケート調査等を実施した上で検討されたが、抜本的改善は、組織制度改革本部に継続させ、今回は、妥当性、倫理性を重視した、関連規定の改正に止め、一人2票制は現行のままとした。

(その他省略)

II. 四役・常設委員長会議

(平成16年11月10日)

この会議は理事会の1週間前に会長が招集し、理事会への提案を検討する会議です。

メンバーは正副会長、専務・常務理事、常設委員長で構成されます。

(議題)

1. 「組織・制度改革本部」について

9月理事会で設置が決定し、組織と検討事項、並びにスケジュールの案を検討した。

1) 改革本部は委員会と幹事会で構成する。

2) 本部委員会委員は次のとおりとする。

本部長；会長、副本部長；副会長3名

本部委員；常設委員長5名、支部理事2名

(北海道、東北)、事務局長

合計12名とする。

3) 幹事会の幹事は常設委員会、部会、支部、県技術士会等から多様な人材15名程度によって構成する。

4) 本部で検討すべき基本事項。

(1)日本技術士会組織のあり方。

組織の基本体系、本部組織と地域組織、部会組織と職域別組織。

(2)事務局組織。(3)委員会組織。(4)部門区分。

(5)将来組織に対応した定款・諸規定の検討。

(6)会員組織率50%以上達成に向けた行動。

(7)実践に向けた調整等。(8)その他。

5) スケジュール。

(1)原則として、委員会は理事会当日の午前中に開催する。

(2)上記の基本事項については、各事項別に各月毎に検討を実施し、平成17年5月までに中間案として全体を完成させる。

これはビジョン21の実践として重要かつ膨大な検討・処理事項ではあり、当然の事ながら議論沸騰したが、可能な限り迅速に実施する事で一致した。

第1回委員会は11月17日に開催される。

2. 野沢太三前法務大臣への顧問委嘱の件。

慣例に従い、国会議員だった会員に顧問委嘱される件で、賛成弁のほか、私からは、「公認会計士業務促進議員連盟」の例を出し、業務委員会活動展開にも必要な事から、国会議員の中に理解者を増やして行く事については「技術士業務促進議員連盟」結成までを提案した。

3. 平成17年度予算編成関連。

17年度から会費2,000円の減額を検討。現状の体制では収支均衡は困難との財務委員会報告があり、会員増強努力とドラスティックな体制改善を前提とした減額検討で一致した。

4. 新潟県中越地震・義援金の受付について

日本技術士会として、新潟県に贈呈する事を決め、会員からの募金を依頼する事となった。

具体的な募金方法については17日理事会までに事務局案を作成する。

5. 理事会メンバーの変更(報告事項)。

11月理事会から、会員除名となった松並氏に代わり全体次点得票者の中本至理事(建設)が選任され、出席される事となった。

(その他省略)

平成16年度第3回全国支部長会議報告

九州支部 支部長 泉館 昭雄(電気電子・北九州)

日時;平成16年11月12日。 場所 安芸グランドホテル(広島県)

出席者;清野会長、安藤・鎌田副会長、竹下専務理事、畠山・大谷常務理事、大島(北海道)、吉川(東北)、中山(北陸)、辻(中部)、加藤(近畿)、牧山(中四国)、泉館(九州)各支部長、他中四国支部関係者、計17名。

I. はじめに 清野会長より、中越地震被災会員へのお見舞い、各支部の活発な活動への謝辞、臨時総会成立のお礼、並びに技術士ビジョン21アクションプラン策定に向けた決意表明があった。我々は、動かない事によるリスクではなく動く事によるリスクに挑戦すると言う姿勢である。

II. 報告、討論事項(主要事項)

2. 1 本部関連

1、臨時総会(9月29日);出席会員数、6802名

の内、賛成6746名(内委任状6580名)、反対56名(内委任状49名)で議案を可決した。⇒議事録あり

ロ、第3回理事会(9月8日)、第4回理事会(11月17日予定);*第3回理事会で「技術士ビジョンアクションプラン策定方針」、「組織・制度改革本部設置方針」を決定し、これを踏まえ第4回理事会に組織・制度改革本部の組織構成、検討すべき基本事項、活動計画を付議決定する。

* CPD証明特別委員会決定*理事選挙・役員選挙規程変更決定

* H17年度収支;会費値下げ前提とした場合、会員2000人増加とし予算案編成した。技術士ビジョンアクションプラン策定関連予算以外は前年度額を上限とする。

ハ、H16年度技術士二次試験(筆記試験結果)

区 分	申込者数	受験者数	合格者数	合格率
総監以外専門	19,062	11,705	2,156	18.42%
総合技術監理	6,535	4,436	1,560	35.17%
合 計	25,597	16,141	3,716	23.34%

ニ、 H16年一次受験状況

区 分	共通科目	適性科目	専門科目	基礎科目
全国総計	3,184	44,573	42,662	42,512
福岡地区	531	5,192	5,030	5,012
前年全国総計	2,828	56,873	48,699	48,640

H17, 1, 14合格発表予定

ニ、 第34回日韓技術士会議。10月25, 26, 27日、於いて米子。305名（韓国112名）参加し盛会であった。次回は韓国、全州予定。

Ⅲ. 支部報告、討議

イ、 支部組織のあり方、本部・他支部との連携、県組織・NPOと支部とのありよう、支部運営課題等について。北海道、東北、近畿、九州各支部から説明・提案あり、本部の「組織・制度改革本部」で検討されることになった。

ロ、 支部財政の課題について。東北、中部、中四国、九州各支部から説明・提案があった。

ハ、 技術士ビジョン21アクションプランについて。北海道、九州各支部から説明・提案あり。各支部事例集約する。

ニ、 大災害発生時の技術士会の対応について。近畿、北陸支部説明。現場では災害復旧に直結する行動が求められる。これへの十分な配慮が必要。

ホ、 九州支部報告 九州支部が挑戦している新規事業；IT化、全国大会準備、CPD第二STEP、青年技術士会・修習技術者研修対応、事務局強化の紹介と、IT、CPDを説明。

最近の主要活動、支部組織等報告した。

Ⅳ. まとめ 支部長会議で提起された諸課題のうち、制度・組織に関する、技術士会としての、組織的検討がなされる事となった。行動する技術士会に向け更に動きが活発となっている。会員諸先生のご協力と行動を切望する次第です。

行事・会合報告

第31回技術士全国大会の報告

九州支部 副支部長 池田 義實（建設・福岡）

第31回技術士全国大会は、9月半ば北海道札幌で開催され、全国から約600名の技術士が集いました。

来年第32回全国大会の九州支部開催にあたって、現在支部では全国大会実行委員会を中心に準備を進めています。直前の全国大会をつぶさに見て参考にし、さらに32回全国大会のPRをすべく、九州支部から支部長はじめ30名ほどが札幌の31回全国大会に参加しました。

その大会の様様を順を追って報告します。

1. 会場周辺

札幌駅コンコースに、日本技術士会紹介のコーナーが設けられていて、そこでは大型パネル25枚ほどを使って、第31回技術士全国大会の案内、日本技術士会の紹介と北海道支部の組織およびその活動状況の説明がなされていました。

環境問題、ロボットなどの先端技術が絵で分か

り易く紹介されていて、一般の人たちが足を止めて見ておりました。

会場となった、ロイトン札幌は札幌のシンボルともいえる大通公園からすぐ近くにあり新しく立派なホテルでした。

イベントの会場は2階と3階のフロアでしたが、2階では参加者受付と会議資料等配布コーナーがあり、それに近接して、北海道特産物等の土産物売り場が上手く設けられていました。

2. 親睦ゴルフコンペ

会場の札幌エルムCCは、札幌駅から約40分、会場のホテルと札幌駅で乗降する貸切バスの送迎がありました。

参加者は全28名で、内訳は北海道支部13名、本部10名、他支部5名で定員40名からみると物足りなさは拭えませんでした。参加費8,000円とやや割

高感があるのがその一因でしょうか。

3. ウェルカムパーティ

前夜祭の行事で、サッポロビール園で行われました。

参加者は約200人ほど、飲み放題食べ放題で大いに賑わいました。

4. 分科会 9:30～12:30

大会テーマの「社会貢献」にそって次の5つの分科会がありました。

第1分科会 「市民との協働」

～観光・教育・環境・自律～

第2分科会 「地域振興」

～地域活性化へのプログラム

第3分科会 「海域技術」

～海と地域を結ぶインターフェイス技術～

第4分科会 「都市防災」

～明日の防災戦略を考える～

第5分科会 「青年技術士の役割」

～時代を拓く技術～

私は第1分科会に参加しましたが、第1分科会では、北海道支部組織の中にリージョナルステート研究会があり、その4分科会・自然科学教育分科会・観光分科会・循環技術システム研究分科会が、市民との協働を通して社会貢献を果たしていく、という目標のもとに日ごろから地域社会と密着した活動を展開していて、その体験報告が主なテーマでしたから具体的に説得力がありました。

第5分科会では、九州支部第7部会の田辺部会長が閉会の挨拶で、「来年、福岡での全国大会は頑張る。21世紀最初の四半世紀を子供達にバトンタッチしていきたい。日本を元気にしよう。我々に出来ることは小さくない！」と言う未来宣言をだされました。

5. 記念式典

式典の最初は「開式の唄」で、江差追分全国大会優勝歌手による「江差追分」が演奏されました。

続いて大会宣言から歓迎挨拶以下型どおり進んで、記念講演になりました。

記念講演は北海道大学大学院理学研究科の西村紳一郎教授に

次世代ポストゲノム

—新たなライフサイエンスのフロンティアへ—というテーマで、新しい遺伝子情報分子のひとつとして注目されている糖鎖について、その性質からこんごの展開・応用研究について講演頂きました。

専門外の私には、学問的なことは難解でしたが、糖鎖研究による新しい医薬品開発や医療技術の開発など応用研究についての話は大変興味深いものでした。

6. 大会交流パーティ

恒例の開会挨拶、来賓挨拶などに続いて、鏡割りがあり、アトラクションとして女性チームの賑やかな踊りが披露されました。

料理は北海道特産の新鮮な海産物などが出されていて、評判良かったようです。

終わりに我が九州支部参加者全員が法被姿で壇上に上がって、「第32回全国大会九州博多へきんしゃい」の大段幕を掲げて来年の全国大会への参加を呼びかけました。

7. テクニカルツアー

主催者側によって、見学先などよく準備手配がなされていましたが、参加者が十数人とやや物足りないものでした。

8. 大会全体の感想

ウェルカムパーティから始まってメインの記念式典、最後のテクニカルパーティにいたるまで、きめ細かによく準備計画し運営された大会だったといえるでしょう。

この全国大会成功に向けて、北海道支部全体が一丸となって取り組んだ意気込みが感じられる立派な大会でした。

業務開発委員会の動き

業務開発委員長 松尾 憲一（機械、総合技術監理・福岡）

前号の技術士だよりで、業務開発の難しさを披露した。今回は、業務開発委員会の動きと題して委員会の内容を紹介してみよう。

1. 委員会の成立ち

九州支部の業務開発委員会は、平成10年度に、主として商工、通産系の業務開発のために常設委員会

として設置された。委員長は泉館現支部長であった。あしかけ7年になる。

2. 委員会のメンバー

現在、委員は13名で、次の通り。

- ・泉館 昭雄 支部長（電気電子）
- ・小出 剛 本部理事（農業）
- ・池田 義實 副支部長（建設）
- ・是永 逸生 副支部長、本部事業委員会委員（機械・総合）
- ・甲斐 忠義 事業委員会委員長（建設）
- ・川崎 迪一 支部顧問（建設）
- ・齋藤 清美 K - RIP 担当（衛生工学）
- ・末松 正典 CPD 委員（機械・総合）
- ・田中 厚一 本部海外業務促進実行委員会委員（経工・総合）
- ・棚町 修一 広報委員会委員長（建設・総合）
- ・津城 正 九州技術士センター普及啓発委員会委員長（建設）
- ・松尾 憲一 業務開発委員会委員長、本部業務幹旋実行委員会委員（機械・総合）
- ・向江 宗利 九州技術士センター監事（経工・総合）

3. 委員会の現状と課題

3. 1 基本的考え方

- 1) 技術士会は高等なエンジニアリング集団である。したがって、この組織が十分に機能発揮できる場を開発する。
- 2) 国の省庁や地方自治体などの関係機関に、技術士会九州支部を広報すると同時に、社会的地位の向上を推進する。
- 3) 顧客から提示された仕事の内容に応じて、効果的達成を具現するため、技術士相互の連携を試みる。
- 4) これらの考え方に立って、積極的な業務の開発を実施し、支部傘下の技術士に業務の幹旋を行う。

3. 2 課題と今後の方向

- 1) 顧客の業務目的に対し、どの技術士が最適であるかの判断が現状では困難。技術士の現在能力、実績内容を掴み、データベース化できないか。
- 2) 新たな領域の開拓には、それなりの資源（情報・資金・時間）が必要。また専門的な調査・研究が必要である。常日頃から技術その他に精

進することによって、社会の要望に対応できるようになる。

4. 具体的な例

4. 1 技術的評価物件

今年になって、技術士会本部の業務幹旋実行委員会のご努力が実って、かなり大きな物件を受託し、各関連部会、各支部に受託物件の委託があった。

それは、中小企業基盤整備機構（前中小企業総合事業団）の物件で、「中小企業・ベンチャー挑戦支援事業のうち事業化支援事業」において、書面審査及び面接審査の技術的視点評価を全面的に日本技術士会に依頼することになったものである。

平成16年度上期分では、519件の書面審査と、10件程度の面接審査であった。九州支部に対しては、30件あり、5名の技術士の方に手分けして、納期10日間で何とか間に合わせた。下期分は11月に話が出てくる。概略の内容は、書面審査の決められた手順にしたがって、①個別項目評価、②採択評価（採択・不採択の評価）を行うもので、日頃からの技術研鑽や社会常識の勉強が必要になる。

4. 2 本部からの直接依頼

最近、本部から、九州地区の損保会社関連の物件が来るようになった。これは今までの実績が大いに評価されたからであろう。もちろん、即座にお引き受けしている。今後も九州の物件は九州支部に任せれば良いという雰囲気継続させたい。

4. 3 裁判所の鑑定人物件

10月29日、泉館支部長と私が、福岡地方裁判所、高等裁判所を訪問して、我が九州支部をPRした。鑑定人に該当する技術集団がこんなに近くにいるということが、今まで残念ながら伝わっていなかった。これは我々の怠慢であり、大いに反省すると共に、今後の発展に期待したい。なお、弁護士会との交流も大いに必要だと考えている。

4. 4 今後の対応

4. 1項の上期519件のうち、情報通信に関するものは65件であった。これに対し情報工学会では、担当委員をリーダーとした研究会が一手に引受け、1週間で評価表記入が完成した。書面審査機関の3機関の中では、日本技術士会が最も速く書類を提出したことで、審査能力は高く評価されたという。

九州支部では、今後の対応として、技術評価グループを当面10名程度選考し、2ヶ月に一度程度の勉強会をして対応したらどうかと考えている。

平成16年度 第3 / 4期 九州支部 CPD 研鑽会報告

九州支部 CPD 委員 長野 義次（農業・福岡）

10月23日（土）福岡商工会議所にて九州支部主催による CPD 研鑽会が実施されました。九州支部 CPD 研鑽会は、A 部門、土曜集中（6 時間）、4 回 / 年という参加しやすさと効率性を考慮した方法により実施中で、今回は、次の 5 題で行いました。

- ①【A-3】 「自然災害の抑制に向けて」 岩尾 雄四郎氏（佐賀大学教授・理学博士・日本技術士会会員）
- ②【A-11】 「九州支部 CPD 第 2 ステップ活動方針について」 是永 逸生氏（日本技術士会会員、九州支部副支部長、本部事業委員）
- ③【A-5】 「アジアの港湾事情と北九州港・響灘ハブポートの整備」 吉永 高敏氏（日本技術士会会員、北九州市港湾局）
- ④【A-8】 「ネットワーク社会のリスク管理・・・インターネットのリスク低減・・・」 久富浩明氏（日本技術士会会員、青年技術士部会副会長）
- ⑤【A-11】 「九州支部における通信システム」 大里 信義氏（日本技術士会会員・九州支部 IT 推進委員長）

今回の支部主催 CPD 研鑽会も盛況で、出席者数も約100名と多数の参加となりました。

議題①では、自然災害による死者は減少しているが、被災額は膨大である。特に昨年は九州が甚大な被害を蒙った。自然災害は科学技術だけの問題ではなく社会科学を含む総合的な問題である。ところが自然科学と社会科学は原因究明の手法や対策の手法が異なっているので総合科学としての調査法、解析法、総合化について主として土砂災害を例にして講演されました。

議題②では、技術士を取り巻く社会の変化に対応するため技術士法の改正や技術士ビジョン21が制定された。これらは技術士、技術士会の社会からの認知、技術士20万人への指向を達成するために CPD

研鑽活動に重要な役割が課せられる。九州支部における CPD 活動第 2 ステップの内容と方向を説明し、技術士諸兄の賛同を求められました。

議題③では、世界の港湾は国際競争が激しく、コンテナ貨物の取扱量の大小による順位を競っている。日頃馴染みの薄い港湾の概要について説明した後に、アジアを中心とする主要港のコンテナを取り巻く状況や、日本の港湾の置かれた状況を特に日本の港湾政策を変えたといわれる1995年の阪神淡路大震災時点に遡って説明されました。次に北九州市が策定した長期構想「響灘環黄海圏ハブポート構想」と、その港湾整備の内容を説明され、国の「スーパー中枢港湾」について図表や写真を使って分かりやすく解説されました。

議題④では、近年のインターネットは一般社会に深く浸透して、利用者は増加の一途で、必要不可欠になりつつある。一般化したインターネット社会において今後も増加すると考えられる不正な利用方法の危険性について被害、原因、対策についてパソコンを稼働させながら分かりやすく解説いただきました。

議題⑤では、九州支部が目指す日本技術士会本部システムとの連携を視野に入れたヒエラルキー型通信ネットワーク及び推進体制の現状を説明していただき、当面の目標であるメールシステムの長短所が明確になりました。今後は e-mail 会員の増員、IT 活用による技術士相互の協同作業など会員の情報交換などの場としてこのシステムや IT が位置付けられるようです。

【お知らせ：九州支部主催 CPD 研鑽会の H16 年度の開催予定日は、平成17年1月29日（土）で、議題 A 部門を中心にメインテーマは自然、環境などです。CPD 開催日は原則として、4 半期毎、第 1 月の第 4 土曜日です。また、講師のご推薦を募集していますので、支部までご連絡ください。】

部会報告

第一部会技術研修見学会報告

三菱電機株式会社 福岡工場

(福岡市西区今宿東1-1-1)

第一部会長 野見山 益生 (機械・福岡)

恒例の第一部会研修見学会は、平成16年10月8日、参加者15名で、三菱電機福岡工場を訪問しました。主として産業機器製品の生産工場である第一工場と、IC生産のルネサステクノロジー及びパワーデバイス関係の工場を見学しました。

工場の大きさは約44,200坪の広大な土地に、建坪約20,600坪の新旧電機工場が、敷地一杯建ち並び、生産は現在、フル稼働の状況にあるとのことでした。

まず当日、ゲストセンターにおいて、半導体・デバイス業務統括部の総務部松崎様から工場の現況並びにビデオによる工場案内の説明がありました。



工場案内のビデオ撮影中

1. 産業機器製品製作の第一工場見学

昭和19年に設立された工場は、主としてギヤードモートル、家庭用井戸ポンプ、電気ホイスト製品等の生産工場で、近年、パワーエレクトロニクス製品との融合による、新しくラインアップされた新型製品が製造され、多様化するお客様のニーズに対応されて、上記製品はもちろん、環境配慮型製品への取組みが積極的に行われております。

主としてギヤードモートルの歯車は、熱処理(表面焼入れ)が完了した高硬度素材から歯車の仕上げ加工を行っており、この硬度に耐える高精度のホブ導入によって、その精度と低騒音が抜群に良くなったと聞いております。工場では、イヤレシーバーで、担当責任者から加工面における技術説明があり、見学者全員がよく分かるように配慮して頂きました。

工場設立当時は、九州では多くの炭鉱を抱え、そ

の需要に応じてギヤードモートルの生産を開始したその年は、生産台数は11台とのことでした。2004年8月現在、ギヤードモートルの現在までの総出荷台数は、375万台と発表されていて、今年がギヤードモートル生産60周年の記念すべき年であるとのことでした。

2. 半導体工場(システムLSI製造工場とパワーデバイス製作所)の見学

昭和53年からIC(集積回路)の生産を開始され、幾多の技術変遷を経て、現在では時代の要請に基づいて、業界最先端技術と豊富なラインアップを持つパワーモジュール、高耐圧・大容量化を実現した大電力パワーデバイス、トランジスターアレイ、HVIC、各種センサーの製品が、陳列ケースの中に収納されていました。

この生産についての製造工程の説明がされ、これらの製品は家電から一般産業機器、自動車、電鉄など電力を使う各種装置やシステムのキーデバイスとしてあらゆる分野で使用されているそうです。一応の説明が終ったあと、クリーンルーム内の製品テストラインの運用状況を硝子越しに見学することができました。現在はフル稼働中でした。

13時からの工場見学も担当部長さんの行き届いたご案内で、16時すぎに無事終り、ゲストハウス前で参加者全員の写真を撮りました。



ゲストハウス前で

その後、室内での質疑応答を終り、三菱電機の関係者の方々に厚くお礼を述べ、16時半に帰途につきました。その途中、三菱電機のクラブである筑前荘で、全員参加による簡単な懇親会を行い、久しぶりに有意義な工場見学を終えました。

なお、今回の研修見学会につきましては、第一部会の技術士である黒江浩先生(三菱電機OB)のご尽力によるもので、末文にて失礼ながら会員一同と共に感謝致しております。

第二部会技術研修会

講演 2 題

第二部会長 長野 紘一（建設・福岡）

第2部会の研修会をCPD委員会と共催で下記の要領で行ったので報告します。

記

研修日：平成16年10月25日

13時30分～16時30分

研修課題 講師

第1部 あなたの夢・アイデア募集について（報告） 13時30分～15時

講師 針貝武紀（㈱建設コンサルタンツ協会九州支部副支部長）

第2部 九州の建設業の現状とこれからの課題 15時～16時30分

講師 久保田勝（国土交通省九州地方整備局建設部長）

骨子

第1部 あなたの夢・アイデア募集事業

本事業は㈱建設コンサルタンツ協会九州支部が、私たちの郷土・九州をより良くする「夢」や「アイデア」を広く募集したものです。

私どもの技術士会も後援し、建設部門の堤八恵子氏がその審査員の一人として参画しています。

今回は応募されたなかから、特に夢やアイデアに富んだ作品を数点コメントも含めて紹介してもらいました。

内容については紙面の都合上割愛しますが、興味のある方は協会で論文集ができておりますので問合せ下さい。

当日は、緒方義幸氏（建設部門）も自分のアイデア「千早駅におけるJR線の西鉄・地下鉄乗り入れ」について直接説明をされました。

2年に渡っての募集で140編近くの夢・アイデア作品が集まりました。その中で、OLや主婦を含む一

般の人達や学生も含めて約40%近くの応募があったことは、主催者にとってもうれしい誤算だったそうです。

若者の技術者ばなれが危惧されている昨今、本事業の成果のひとつとして「学生や会員会社子女に夢を与えることができた」という言葉が強く印象に残りました。

今後、この事業をより発展的に進め「社会資本整備」の推進に貢献できる方策など、検討していく座談会が企画されているそうで、益々の発展を祈念するものです。

第2部 九州の建設業の現状と課題

現在の建設業の一側面をみると、建設投資額のピークは平成4年の約84兆円に対して、平成16年は約60%の52兆円まで落込んでいます。

その反面、建設関連企業やその就労者数は逆に増加しています。即ち、パイは減っているのにそれを食べる人は増えている、という建設産業界の構造的欠陥が存在しています。

この問題に対応するため国土交通省も、例えば、「建設産業アドバイザー制度」や「経営情報相談窓口」を設け企業の悩みの相談に応じたり、建設業界が新しい分野へ展開できるよう「新分野進出モデル構築支援事業」も立ち上げており、これ等の制度を積極的に活用して欲しいとのことでした。

今話題の三位一体については、国も地方も金が無い時代を迎え、お互に汗をかき行財政改革を進めるとともに、地方分権を推進していこうという哲学の基に行われるべきものですが、今回の地方の案には大きな問題が存在しているとのことでした。

例えば河川砂防予算が地方案通りになれば、現在着手している河川事業の70%、砂防事業の90%は廃止対象となってきます。しかし災害予防と復旧は一体不可欠なものであり、災害発生に応じて機動的・集中的に事業実施ができなければ、国民の生命財産を守ることは難かしいとのことでした。

いずれにしろ、三位一体改革については、私達ももっと関心を持つ必要があると考えました。

第四部会技術講演会

講演 2 題

第四部会長 加藤 晃一
（上下水道、総合技術監理・福岡）

平成16年10月18日（月）、福岡商工会議所ビル（福岡市博多区）において、日本下水道協会九州支部の後援のもと、本年度の第四部会技術講演会が開催された。

講演は、福岡の行政分野でご活躍中であり、下水道分野で経験豊富なお二人から、以下の非常に興味

あるお話をいただいた。44名（民間15名、官公庁11名、技術士18名）の参加者の方々が熱心に聴講された。

1. 中国山東省の下水道事情

松尾 孝則氏（上下水道、総合技術監理）

松尾氏（福岡市下水道局建設部博多駅地区浸水対策室工事係長）は、福岡市下水道局が JICA と連携して行う技術交流「中国における草の根技術協力事業」の一環として、今年8月から9月にかけて中華人民共和国の山東省へ下水道の専門家としてご指導にあられた。

派遣テーマは「山東省における最適水準、最適規模の近代下水道システム整備のための技術移転を図る」であり、山東省建設庁との技術交流、山東省内の臨沂市・沂水市・ジュナン県との技術交流、山東建築工程学院との交流活動などについてのご説明があった。

中国山東省では行政組織が省→市→県と日本より複雑で厳格な縦割構成となっており、日本の県相当の「省」が下水道設計、市町村相当の「市・県」が施工・維持管理を担当している。省建設庁は、管渠工事において勝手に勾配や埋設深を変えてしまう「市・県」に対し、指導面等で大変苦慮しているそうである。

人口約190万人の臨沂（リンイー）市の下水道は、都市の周囲に設けた人工水路に管渠で雑排水を収集し、水路に隣接した終末処理場（何と、日最大5万 m^3 /日のOD法）において水処理を行っている。水路は下水臭があるものの処理水質は以外に良好である。電力事情が不安定で停電が多く（自家発は設けてない）運転管理はうまくいっていない。

ほかに、土地は国営だが農地の土は農民のもの



松尾氏講演

いう中国らしい発想など、文化や国民性の違いを含め非常に興味深いお話をご披露された。

2. 下水道のはなし

飯田 徹男氏（上下水道、総合技術監理）

福岡県の「下水道の顔」として名高い飯田氏（福岡県下水道公社理事長）は、県内の流域・公共下水道の普及貢献に加え、多くの下水道技術者の育成にも貢献されている。因みに小生もその弟子の一人であるが、まだまだ足下にも及ばない私が、今回は誠に失礼ながら司会までさせていただいた。

ご講演は、副題を「淡い光」としてご紹介され、3月に北歐アイスランドの首都レイキャビク等をご視察された際の写真とともに、北歐の澄んだ星空に光るオーロラ、荒涼とした北極圏の原野、また日中の淡い日差しの中で生活する人々に関するお話など、県内下水道のお話とともに、普段聞くことができない貴重なお話を拝聴した。

特に、県内8流域下水道のうち、御笠川浄化センターでは、嫌気無酸素好気法の水処理系列からの処理水を活用した「ホタルの飼育・研究」に取り組みされている。この系列からの処理水は標準法に比べ、全窒素が概ね半減、全リンが概ね8割減という非常に良質な処理水を「生産」している。場内の処理水再利用蛍水路においてホタルを飼育・研究されているが、エサとなるカワニナが不足し苦勞されているとのこと。

聴衆は、このあたりで仕掛けに気づく！——冒頭のオーロラ、北歐の淡い日差しと、講演副題である「淡い光」に、ここで結びつくのか……。誠に凝った、素晴らしい演出に、小生は、再びさらに脱帽の限りであった。



飯田氏講演

地域だより

佐賀

NPO 活動の近況報告

地区広報委員 島内 明 (建設)

佐賀地区の技術士は、全て NPO 法人技術交流フォーラムと共同の活動を行っております。個々の技術士が地域に密着し、住民、行政、大学、諸団体、企業との連携を伴った活動をし、会員全員が共通の認識を持つことを意識しながら地域活動を行っております。

◆日常の NPO 活動

月 1 回の佐賀地区 CPD 研鑽会を行っています。

NPO 法人技術交流フォーラムの CPD 委員会が企画運営をしております。最近の研修会話題は、「佐賀導水と城原川河川整備について」、「電気探査による地下水調査」、「転換期の建設コンサルタントの技術者」、等々近年の話題性のものを取り上げております。講師には、九州在住の技術士の方、またメーカーの専門技術者の方をお願いしています。

一部は地盤工学会や低平地研究センター等との共

催事業も取り組んでおり、また、一般に公開しており、当法人のホームページに掲載しております。

最近のお知らせは、11月17日～18日第4回加速器利用技術セミナー「シンクロトン光を中心とした産業利用」があります。

また、巨勢川調整池の利活用計画会合、城原川流域委員会、佐賀県庁が進めている県民協働による有明海再生行動計画策定に関するワークショップ等に各会員が参加しています。

◆事業としての活動

佐賀地区は九州支部甲斐事業委員長の下、九州支部主催の第11回西日本技術研究・業績発表会を平成17年6月に佐賀で開催すべく準備を長崎県技術士会と NPO 法人技術交流フォーラムと共に進めています。大会テーマは、「くらしと産業の危機管理（仮称）」としております。

また、恒例の「平成16年度技術懇話会」を、佐賀県立宇宙科学館で11月27日（土）に、講演①「箱にノミを入れたら（講師：エッセイスト / 笠原瑠璃子氏）」、講演②「地下水の環境変化の調査法について（講師：長崎県技術士会 / 柏原公二郎氏）」、話題提供「この1年間を振り返って」で行いました。

大分

森林環境税と大分県の取組み

浜 光春 (建設)

大分県の森林面積は、約457千 ha で県土の72%を占めており、そのうち国有林が1割、民有林が9割となっている。

林業を取り巻く環境は厳しく、長引く木材価格の低迷、山村の過疎化に伴う林業就業者の減少・高齢化が進み、手入れされずに放置された森林が増えている。

森林は、数多くのかけがえのない、機能をもつ。

- ① 生物多様性保全機能
- ② 地球環境保全機能
- ③ 土砂災害防止機能・土壌保全機能
- ④ 水源涵養機能
- ⑤ 快適環境形成機能
- ⑥ 保健・レクリエーション機能
- ⑦ 文化機能

⑧ 物質生産機能

これらの素晴らしい多面的機能を生かすことと、低迷する林業を支援することを目的に、既存施策のほかに新たな手法として、全ての県民で支える森林作りのために「森林環境税」の創設が、大分県でも検討されている。

10月25日、県森林環境税制懇話会の意見報告書が県知事に提出され、県林務管理課および税務課では、県内各地で県民向けの説明会と意見交換会を開催している。報告書では、税制について、県民税に一定額（個人は年額500円、法人は同5%）を上乗せする「県民税均等割超過課税方式」が望ましいとしている。

全国では高知・岡山両県がほぼ同様の税を導入済みで、鳥取・鹿児島両県が来年実施に向けた条例を既に制定しているが、大分県では県民の意見を聞きながら、これからの実施に向けて取り組むという。

森林環境税には直接関係ないが、直入町では長湯温泉に湧出する炭酸泉の安定的な確保と効率的な利用を目指し、「町温泉（炭酸泉）資源涵養条例」を制定し、保水力の高い広葉樹の植樹に補助金を交付することになっている。

宮 崎

小丸川発電所現場見学会

地区代表幹事 新城 精一(建設)

「土木の日」の見学会の下調べと CPD を兼ねて技術士会で小丸川発電所の現場見学会を実施しました。10月16日、23日の2回、延べ25名の参加者がありました。今後、見学を検討される方のためにタイムスケジュールを記しておきます。(7時30分事務局出発)(8時30分小丸川発電所建設所本事務所)

(9時30分上部ダム)(11時 地下発電所)(11時50分下部ダム)(13時本事務所・解散)でした。無理にお願いして休日の土曜日に実施してもらい、半日での強行スケジュールでしたが大好評でした。

身近なところに大規模な揚水発電所の適地があったことに驚かされ再認識させられました。700mもの落差のとれる急峻な地形、総貯水容量620万 m^3 の上部ダムの確保できる広い尾根地形、最大出力120万kwの地下発電所の立地に適した硬い花崗岩帯、総貯水容量690万 m^3 の下部ダムに適した地形など。

立地に恵まれて導水路トンネルは不要とのことでした。発電所は地下400mと深く、何本ものトンネルで結ばれていてあたかも核シェルターの感がありました。

現在、上部ダムのアスファルト遮水壁の舗装工事、地下発電所の発電機設置のための工事、下部ダムの本体工事中で全体の50%の進捗状況とのことでした。IT施行の土工事は既に終了していましたが、上部ダムの舗装工事は自動化施工で最盛期を迎えていました。

現場発生の掘削ズリは、コンクリート骨材に転用し、発生した濁水は脱水処理後リサイクル利用する等、循環型社会実現のためにゼロエミッションを目指していました。また、絶滅危惧種のクマタカやコウヤマキ等に対する保全対策等環境保全には万全の対策を講じておりました。

この建設所には、所長以下技術士が何名か居られて快く見学させていただきました。心から感謝申し上げます。完成までにはまだ間がありますし、近くには、「武者小路実篤のあたらしき村」もあります。皆さんも機会を見つけて見学されてはいかがでしょうか。

鹿児島

CPD 研修会の課題

地区広報委員 竹元 幹生(応用理学)

鹿児島地区では会員を講師にした CPD 対応の技術研修会を、平成14年1月以降、毎月第2土曜日午後開催しております。

今年度も下記のとおり比較的順調に開催して参りましたが、毎月案内文を送付する全会員数203名(うち技術士166名)に対しての参加者数は30名前後で、その顔ぶれも固定化の傾向にあり、特に若い企業内技術士の参加が少なく、全体的に低調であることが今日の課題となっております。

参加費は1人1,000円で、不足分は予備費から補充させて頂いておりますが、鹿児島では計40名の参加があれば収支が出来る状況にあります。

全国のCPD登録率が1桁台(九州は10%台)と言われるなか、当初ささやかれていたCPD単位確保の義務化(技術士資格の抹消等)がなく、技術士としての良心に任せる現状では、参加数増大の決め手

がなく切歯扼腕の状態であります。

本会の青年部では、各講師の長年にわたり培ってこられた技術について、相当な労力を掛けてまとめられた講習会資料を一過性のものとしないうちに、冊子化を準備中であります。

専門技術力向上に向けての日々研鑽はもとより、専門外の知識も積極的に習得して、豊かな知性派技術者へ挑戦してみてもは如何でしょうか。

月	講 師 (部門)	テ ー マ
5	西山 哲郎(建設)	村づくりについて思うこと
6	遠矢良太郎(森林)	産学官連携と研究課題への取り組み
7	秋野 義廣(農業)	広域農道出水地区について(GIS的視点での考察)
8	田中健次郎(環境)	環境問題と地域づくり
9	萩原 清文(建設)	最近のPC橋梁と補強技術
10	宮脇 優(電気)	電気エネルギーの現況と展望
11	前田 勉(農業)	奄美地域の土砂防止対策について
1	八木 章久(建設)	未定
2	井内 祥人(森林)	未定
3	福田 俊仁(農業)	未定

I

九州新幹線の技術と効果について

第7部会長

田辺 努（機械、総合技術監理・福岡）

本年3月13日、九州新幹線が新八代～鹿児島中央間で開業いたしました。私は営業主体であるJR九州に所属しており、その技術と効果について概要をご紹介します。

○ 線路

博多～新八代が122km、新八代～鹿児島中央が127km、合わせて249kmで、駅は今のところ11駅（博多、新鳥栖、久留米、新大牟田、新玉名、熊本、新八代、新水俣、出水、川内、鹿児島中央）の予定です。工事費は、新八代～鹿児島中央間で約6400億円、まだ建設途中ですが博多～新八代間では約7900億円かかる試算となっています。特徴として、新八代～鹿児島中央は区間の約70%がトンネルである一方、博多～新八代ではトンネル比率は30%となっています。もう一つの特徴は、急勾配が多いという点で、最大35パーミルあります。これは、建設費を抑える目的及び極力地下水位より上をを通すためですが、新幹線では最大の勾配で、車両の開発にも影響を与えています。新八代駅で在来線との乗り換えが発生しますが、乗り換え抵抗を軽減するため、同一ホームで乗り換えられるように、在来線の線路を新幹線高架につなげるアプローチ線を新設しました。

○ 車両

車両は、約90億円かけ、30両（6両×5編成）を新製しました。ベースはJR西日本とJR東海が共同開発した700系車両（レールスター等）を使用し、急勾配での起動性能確保のため6両全てを電動車としました。700系は基本編成が8両編成であり、8両に配分されている各機器を6両にうまく納める機器配置設計で苦心しました。全電動車で機器も6両

に集約したので重量が大きくなることを、他の部分を軽量化することで全体の重量増加を軽減する工夫を行いました。先頭形状は、新鮮味をアピールするため、700系と異なる新しい形状を採用しています。新形状の開発にあたり、風洞実験による空力抵抗や騒音の検証を行いました。内装も、和の雰囲気がかつ斬新なデザインとなっており、素材は八代のイグサで加工した縄暖簾や熊本・鹿児島産の楠、桜材を使用したロールブラインド、手すり、取手等を使用するというこだわりぶりです。シートは700系レールスターと同じく新幹線としては贅沢な全車両4列でゆったり座れるかと思えます。

○ 信号システム

デジタルATC（ATCとは、駅や分岐器が接近すると自動的に列車のブレーキがかかるしくみ）を採用し、従来ATCでのブレーキが断続的にかかり到達時分や乗り心地に与える問題点を、連続的にスムーズなブレーキがかかるよう改善しています。

○ 効果

到達時間は、営業最高速度260km/hで、以前の博多～鹿児島中央3時間50分が2時間10分になり、約1時間40分短縮されました。全線開業時には、博多～鹿児島中央が1時間20分になります。また、仮に営業最高速度を300km/hまで向上できた場合は、1時間と数分になります。感覚的には鹿児島が今の熊本より近くなります。また、航空機との競争という点から考えると、一般に乗車時間が3時間以内だとビジネス客は鉄道を選択するといわれており、全線開業時には鹿児島中央から岡山あたりまでが3時間圏内になり鉄道利用が望めるようになるのではないかと思います。現に、九州新幹線開業後、航空機のシェアが減ったようで航空会社が福岡～鹿児島便を大幅に値下げしました。

利用者は対前年2.4倍で好調に推移しており、開業後115日で累計100万人を突破しました。是非皆様にも実際にご利用いただき、ご感想などおきかせいただければ幸いです。

II

芋がなぜ足りない

熊本県技術士会

中野 正一（農業・熊本）

平成12年の秋にゴルフ場のロングラン大会において幸いにも入賞し、3泊4日の北海道ゴルフツアーが当たった。よろこび勇んで参加したが、ゴルフの方は誉められたものではなかった。

夜は知人と札幌の町を散策しある飲み屋に立ち寄った。そこでの出会いが九州の最南端大根占町で生産されている焼酎（魔王）であった。九州でも中々お目にかかれぬ焼酎が北の果て北海道で特定のカンバン焼酎になっていることとまろやかな味に新ためて感動した。

焼酎も酒税が上がり、高すぎると飲む人が少なくなるのではと思ったが、逆に焼酎党が増えよけいな心配だった。特にイモ焼酎は、白い濁りを消し、匂いを押さえ飲み易くしたことでファンが増加したのだろう。それにしても今年はイモが足りないという。ただの噂なのか真相を調査してみた。

甘藷の生産量

甘藷の生産量をみると昭和30年代をピークに減少の一途をたどっている。

平成15年は100万トンを切りピーク時の1/7に過ぎないことがわかる。

これは生食用も含むので正式な焼酎用の原料トン数ではないが、相対量として著しく生産が減少したのである。

昭和10年	358万トン	平成元年	143万トン
〃 20年	390	〃 10年	114
〃 30年	719	〃 12年	107
〃 40年	496	〃 13年	106
〃 50年	141	〃 14年	103
〃 60年	153	〃 15年	94

わが国への甘藷の伝来は17世紀初頭といわれている。甘藷は、早魃や台風などの自然災害に強く生産が安定しているところから広く栽培されてきた。戦後の食糧難時代は、主食の米の補完食品として重宝がられ国民の飢えをしのぎ非常に貢献をした。

甘藷の生産量は、貿易の自由化や日本の国際化の進展にともない安価な輸入工業原材料等への転換が進み、国産甘藷の需要は急激に減少してきたが、甘藷の持つ多種類に上る栄養素は、真に人間が必要とするものを包容しており、これからも人々に愛される自然食品であることに違いはない。

平成13年11月7日の読売新聞は、サツマイモの葉にエイズの発病を抑制する物質が含まれていることが、独立行政法人九州沖縄農業研究センターと熊本大薬学部の共同研究でわかったと報じた。またO157に対し、サツマイモの葉の成分に含まれる抗菌性の物質が含まれることが都城市にある同センター畑作研究部の基礎試験で分かったことも報じられた。これら品種によって用途は異なるであろうが、安全、安心な自然食品への要請が高まっておりイモの需要は今後益々拡大されるであろう。

第32回 技術士全国大会のご案内

来年福岡で開催予定の技術士全国大会の概要についてご案内いたします。

日 時：平成17年10月19～20日

場 所：ホテルニューオータニ博多
（福岡市中央区）

テーマ：技の連携・培う地域の新文化

記念講演：「海洋温度差発電」 上原 春男氏

佐賀大学海洋エネルギー研究センター教授
（前佐賀大学学長）

分科会

第1分科会：アジアへのかけはし

第2分科会：環境保全と安全・安心の国づくり

第3分科会：地域振興とNPO法人との協働化

第4分科会：技術者倫理

第5分科会：青年技術士の活動

研修技術者の声

修習技術者となって

神田 淳一（建設・大分）

私が修習技術者となってはや1年が経過した。昨年「技術士試験を受験するには技術士第1次試験の合格が条件となった」と友人に聞き、何はともあれ1次の合格、と1次試験に臨んだ。何とか（運良く）合格したのだが……。

私が現在の仕事（建設コンサルタント）の世界に身をおいて30年近く経過したが、技術士の資格を意識するようになったのは10年ほど経ったころからである。今までは、だれでも一定の要件を満たせば技術士試験を受験でき、実際何度か挑戦した。しかし合格しないまま現在にいたった次第である。自分の仕事が、広く浅くではないが、建設関係全般の設計に従事する立場であったせいか、いざ試験に向かうとどうも論文（記述式問題）がうまくいかない。用語が頭に浮んでこない。いや、択一式の解答ですで

に合格ラインに達していなかったのかもしれない。そんなこんなで、仕事の忙しさも手伝ってこの試験から遠ざかって10余年になる。そんな折、友人との酒の席にて、友の一人が技術士資格を取得したと聞き“みんなで頑張ろう”ということになり昨年の受験に至ったのである。

近年、建設コンサルタント業界の入札において有資格者の配置が要件となり、ますます技術士資格の取得が叫ばれるようになった。また、不景気のせいかダンピング受注も多く目に付くようになった。我々技術者にとって技術力が正当な対価をもって評価されるのは当然のこと、と考えているのだが……。こんな中、国土交通省では低価格入札への対応を含め入札契約方式の改善策が検討されているようである。そのひとつに「企業・技術者評価の徹底」が記され、技術者の技術力が受注を左右する時代が訪れそうである。自分としても技術士の補助をしながら技術力の向上をめざし、技術者の評価要件である技術士資格を取得する事を目標に第2次試験合格めざして努力していきたい。

知識の窓

特殊土「しらす」の杭先端の 極限支持力度

新納 格 工博（建設、総合技術監理・鹿児島）

鹿児島県は、県土の多くが「しらす」と呼ばれる凝灰岩（非溶結部）に覆われています。この「しらす」は特殊土に分類され、一般的な設計指針ではその強度を過小評価し、コスト削減の面から多くの課題が示されています。

例えば、地元大学の教授は、「しらす」のN値は2倍に評価できると提案しています。ここでは、杭先端の極限支持力度について、有用な経験を得たのでご紹介したいと存じます。

杭先端の極限支持力度は、標準貫入試験で得られたN値から求めるのが一般的ですが、「しらす」について、杭先端部で孔内水平載荷試験を実施し、破壊圧と全土被り圧を用いて算定すれば、道路橋示方書の評価（N値の150倍）の1.5倍程度の値を得ること

ができます。これは、従来は砂層相当とした「しらす」を、砂礫層相当に評価するもので、大幅なコスト削減となります。

この方法の詳細は、下記の文献をご参照下さい。特殊土である「しらす」などの強度特性を評価する場合、設計指針・基準の簡便な方法に固執せず、合理的手法で正確に評価するほどコストが削減できることを強調したいと思います。

設計指針・基準は、地盤破壊に対する最低限の安全率と構造物の機能・性能を確保し、地盤強度と剛性を安全側に過小評価するよう設定し、現場で必ず実行できる地盤調査・試験法を示すものです。適切な地盤調査・試験を行い、地盤の変形強度特性がより確実になった場合は、規定とは異なっても良いという原則を忘れてはならないと存じます。

地盤工学会編：地盤調査の方法と解説、pp. 319-327、平成16年に解説があり、詳細は Baguelin, F., Jezequel, J. F. and Shields, D. H. : The pressuremeter and foundation engineering, pp. 163-333, 1978 をご参照下さい。

IT 推進委員会報告

IT 推進委員会委員長 大里 信義（化学、総合技術監理・北九州）

去る平成16年10月12日、日本技術士会九州支部事務所において IT 推進委員会を開催したので報告する。

（島中委員の議事録から抜粋）

出席者（敬称略）；大里信義（委員長）、池田義実、木下茂廣、島中新二郎、青山次則、久富浩明、梶原宏一郎、浦島和衛、以上 9 名

議事内容

1. 九州支部の e-mail アドレス、ファックス名簿の整備状況報告

九州支部のヒエラルキー型通信システムを実施するため、会員が希望する通信方式を e-mail、ファックス、その他の 3 方式について調べ、e-mail 希望者の e-mail アドレスの整備がかなり進んだ。その結果、部会長・地区代表幹事と中継点としたヒエラルキー型通信システムを開始することが出来た。

全会員数及び会員の仕分けは次のようになっている。

会員数のまとめ（10月25日現在）

	e-mail 可能会員	ファックス 会員	その他	計
支 部 正 会 員	583	117	54	754
センター 会 員	350	95	95	540
計	933	212	149	1294

なおこの名簿のによる会員の地区別、部会別、e-mail 又はファックス別などの仕分けとファックス発信は基本的に事務局内で処理できるようになった。

2. 今後この名簿を基本としたヒエラルキー型通信システムを運用していくための名簿のメンテナ

ンス方式について審議し、以下の点をメンテナンスの基本とすることとなった。

- ① 部会、地区会員の異動データは管理担当者が事務局に報告し、事務局で一括管理する方式とする。事務局は森担当事務員が直接事務局に情報が来る異動データとあわせて名簿の更新を行う。更新作業には CD-RW 等の記憶媒体を活用するとともにセキュリティの観点から、名簿データを事務局 PC に常駐させず、オフラインでデータ管理をする。
- ② 更新後のデータは部会・地区単位に分割してそれぞれ月単位程度の頻度で部会・地区の担当者にフィードバックする。
- ③ フィードバックされた名簿情報からのアドレス帳への取り込みを一括方式か異動分のみの方式にするかは今後の検討課題とする。
- ④ 今後この名簿データにまだ取り込んでいない現行会員名簿（製本分）などの詳細情報は漸次このデータベースに補充して行き、名簿情報の電子化・PC による検索方式に移行していく。（最新情報へのアクセスと名簿の発行回数の削減につなげる。）
- ⑤ ヒエラルキー型通信システムでは e-mail による通信情報の補足に極力ホームページへのリンク方式をとりいれて情報通信の充実を図る。

3. これまで 2 年間 IT 推進委員会で進めてきた九州支部 IT 化の具体的方向（情報通信の e-mail によるネットワーク化）が固まったので、これを次回 CPD（10月23日）の中で PR していく。（その後10月23日は大里がプレゼンテーションを行った。）

佐賀地区からのお知らせ

技術士会 佐賀地区活動、2004年度 CPD 活動内容案内、その他の詳しい活動内容は、NPO 法人技術交流フォーラム HP に掲載しております。随時更新しておりますが、現在新しいスタイルの画面を作成中です。「技術士だより」の読者の

皆様から、技術士会佐賀地区および当法人への御連絡・意見等がございましたら、事務局 npo@rapid.ocn.ne.jp へ mail お願いします。

「NPO 法人技術交流フォーラム」

ホームページ <http://www.gi-fo.com/>

会員ニュース

☆(社)日本技術士会(九州支部) 入会

(地区)	(区分)	(氏名)	(部門)	(上段:連絡先/下段:勤務先) (連絡先と勤務先が同じ場合、連絡先のみ)	TEL	FAX
福岡	正会員	帆足 雄二	建設	〒819-0004 福岡市西区愛宕南1-1-7 パシコン福岡ビル パシフィックコンサルタンツ(株)	☎(092)885-5008	FAX(092)885-5004
福岡	正会員	山田 裕康	建設	〒812-0018 福岡市博多区住吉4-3-2 博多エイトビル3F 日本工営(株)福岡支店技術部		
福岡	正会員	永矢 貴之	建設	〒815-0042 福岡市南区若久3-8-21 メロディハイツ若久102 (株)建設技術研究所九州支社	☎(092)714-2211	FAX(092)715-4352
福岡	正会員	水野 正博	建設	〒819-0004 福岡市西区愛宕南1-1-7 パシコン福岡ビル パシフィックコンサルタンツ(株)	☎(092)885-5008	FAX(092)885-5004
福岡	正会員	平井 一男	建設	〒810-0013 福岡市中央区大宮1-1-12-202 (株)協和コンサルタンツ	☎(022)266-6073	FAX(022)267-5139
福岡	正会員	松永 昭吾	建設	〒819-1117 福岡県前原市前原西1-5-18エム・ジャルダン1301 (株)建設技術研究所九州支社	☎(092)714-2211	FAX(092)715-5200
福岡	正会員	入江 義徳	上下水道	〒816-0078 福岡市博多区竹丘町1-4-3-1402 第一復建(株)	☎(092)502-1768	☎(092)431-0724
大分	正会員	石田 寛生	上下水道	〒879-5102 大分県大分郡湯布院町大字川上1188-26 (有)アイ・エヌ・ティ	☎(0977)84-3710	FAX(0977)84-4822
長崎	正会員	友永 利光	上下水道	〒859-2504 長崎県南高来郡口之津町丙3769 口之津町役場都市計画課	☎(0957)86-2111	FAX(0957)86-3958
長崎	正会員	酒見 和幸	衛生工学	〒811-4175 福岡県宗像市市田久416-23 (株)九電工長崎支店	☎(095)840-0810	FAX(095)840-0821
鹿児島	正会員	寺村 靖夫	農業	〒891-2304 鹿児島県鹿屋市花岡町4078 灌漑技術研究所	☎(0994)31-8825	☎(0994)31-8825
福岡	正会員	吉木 久人	農業	〒818-0131 福岡県太宰府市水城6-3-8 アジア航測(株)福岡支店	☎(092)441-1480	FAX(092)481-0469
北九州	正会員	長江 修	水産	〒808-0144 北九州市若松区高須東3-8-27-3 (株)ジェイベック若松事業所	☎(093)741-1808	FAX(093)741-6734
福岡	正会員	辻 和毅	応用理学	〒815-0041 福岡市南区野間2-10-31 不二グラント工業(株)	☎(092)541-4192	☎(092)629-8771
福岡	正会員	林 篤	応用理学	〒814-0022 福岡市早良区原4-4-2-402 日本工営(株)福岡支店技術部		☎(092)847-4571
熊本	正会員	尾上 秀司	応用理学	〒862-0935 熊本市御領6-1-6 応用地質(株)熊本支店	☎(096)386-4610	FAX(096)388-2088
福岡	正会員	琴尾 公彦	応用理学	〒819-1113 福岡県前原市大字前原700-65 G I S A P		☎(092)329-1254 ☎(092)329-1254
福岡	正会員	矢鳴 英明	化学	〒810-0032 福岡市中央区輝国2-16-30-403 矢鳴技術士事務所	☎・FAX(092)781-7855	
福岡	正会員	中島 城二	建設	〒811-1251 筑紫郡那珂川町松木428-1 グレイスマンション博多南Ⅲ801号 (株)長大福岡支社	☎(092)954-0546	☎(092)472-3960
北九州	準会員	岩永 豊	衛生工学	〒804-0042 北九州市戸畑区夜宮3-10-6 グランドパレス夜宮公園203号 三井鉱山(株)総合研究所	☎(093)882-5073	☎(093)751-7715
北九州	準会員	小澤 祐二	環境	〒820-0067 飯塚市大字川津426-1 フラット肘井23号 近畿大学産業理工学部生物環境化学科		☎(0948)22-5655
福岡	正会員	幸 俊宏	上下水道	〒819-0005 福岡市西区内浜2-7-15 日宝サンセーヌ姪浜801 日本工営(株)福岡支店	☎(092)891-5923	☎(092)475-7569

福岡	正会員	児玉 浩	応用理学	〒819-0005 福岡市西区内浜1-1-23-403 日本工営(株)福岡支店	☎(092)883-6663 ☎(092)475-7565
福岡	正会員	手島 親司	上下水道	〒813-0005 福岡市東区御島崎1-25-207 (株)都市開発コンサルタンツ	☎(092)681-0296 ☎(093)871-5622
熊本	正会員	田北 廣	応用理学	〒860-0079 熊本市上熊本2-7-28ロマネスク上熊本II201号 田北技術士事務所	☎(096)326-2026 ☎(096)312-9525
北九州	準会員	三上 武仁 建	設	〒752-0916 下関市王司上町5-5-2 日本ジタン(株)	☎(0832)48-0373 ☎(093)541-1090
鹿児島	準会員	稲留 陽尉 環	境	〒891-0114 鹿児島市小松原2-24-22セントポール小松原304 (財)鹿児島県環境技術協会	☎(090)2857-8814 ☎(099)262-5369
宮崎	正会員	内村 雄一	応用理学	〒880-0841 宮崎市吉村町曾師中甲3097-2 イル・パラッツォ曾師203号 応用地質(株)宮崎支店	
佐賀	正会員	堤 茂徳 建	設	〒845-0013 佐賀県小城郡小城町大字栗原481 (株)中野建設	☎(0952)72-5580 ☎(0952)24-3121
熊本	準会員	酒井 宏明 建	設	〒865-0006 玉名市両迫間670-1 迫間ラッキーハイツ103 (株)有明測量開発社	☎(090)4774-9843 ☎(0968)73-3463
福岡	正会員	林 英男	衛生工学	〒819-0052 福岡市西区下山門3-15-10-401 (株)九電工空調技術部	☎(092)894-6448 ☎(092)523-1976
福岡	準会員	山口 哲	生物工学	〒839-0801 久留米市宮ノ陣4-5-342 福岡県工業技術センター生物食品研究所	☎(0942)30-6644

☆九州技術士センター入会

福岡	正会員	桑名 邦夫 建	設	〒820-0712 嘉穂郡筑穂町大字大分1985-35 (有)桑名建設コンサルタンツ	☎(0948)72-3028 ☎(092)931-3680 FAX(092)931-3681
福岡	正会員	井上 秀治 建	設	〒815-0037 福岡市南区玉川町4-27-211 西日本技術開発(株)	☎(092)737-5310 FAX(092)737-5318

☆会員連絡先(住所)および勤務先変更

(地区) (区分) (氏名) (部門) (変更)

北九州	準会員	小今井将仁	機 械	勤	〒811-3212 福岡県宗像郡福岡町花見が浜2-1-1 (株)キューヘン	☎(0940)42-1364
長崎	正会員	林 讓	農 業	勤	〒854-0011 諫早市八天町16-13 若築建設(株)九州支店諫早営業所	☎(0957)22-3061 FAX(0957)22-5651
福岡	正会員	矢野 寛幸	応用理学	連	〒816-0851 春日市昇町5-37-606	
福岡	正会員	江口 英治	上下水道	連	〒818-0068 筑紫野市石崎1-4-1-702	☎(092)925-9375 FAX(092)925-9375
北九州	正会員	副田真日止	化 学	勤	〒811-4303 福岡県遠賀郡遠賀町遠賀川2-6-7 副田技術士事務所	☎(093)293-2659 FAX(093)293-2659
宮崎	正会員	大島 徹矢	水道総合	連	〒880-0056 宮崎市神宮東1-4-28-1201	☎(0985)29-4704
宮崎	正会員	佐々木正恕	農 業	勤	〒小林市大字堤3020-5 農林水産省九州農政局西諸農業水利事業建設所	☎(0984)25-1236 FAX(0984)25-1238
福岡	正会員	星加 博二	建 設	勤	〒星加技術士事務所	☎(092)651-9180
北九州	正会員	栗岡 開	建 設	勤	(株)本間組	☎(093)511-0983 FAX(093)511-0930
大分	正会員	阿萬 次郎	建設農業	勤	〒879-1506 大分県日出町字仁王3531 大分県別枠速見地方振興局	☎(0977)72-2914 FAX(0977)72-2504
長崎	正会員	池松 正弘	農 業	勤	〒854-0033 諫早市黒崎町163 太平商工(株)長崎営業所	☎(0957)35-4511 FAX(0957)35-4521

福岡	正会員	松下 幸正	建設	勤：〒810-0001 福岡市中央区天神 1-14-16福岡三栄ビル (株)復建エンジニアリング福岡支社 ☎(092)716-6262 FAX(092)716-6361
福岡	正会員	藤本 康孝	上下水道	勤：〒810-0004 福岡市中央区渡辺通 1-1-1 西日本技術開発(株) ☎(092)781-1403 FAX(092)761-7292
福岡	正会員	足立 宏美	建設	連：〒877-0007 日田市丸山 2-4-48 ☎(0973)23-1246 勤：〒812-0013 福岡市博多区博多駅東 2-14-1 前田建設工業(株)九州支店土木部 ☎(092)451-1549
福岡	正会員	今村 晋作	森林	勤：〒815-0084 福岡市南区市崎 1-2-8-151 (株)杉田測量設計コンサルタント福岡支店 ☎(092)526-7973
佐賀	正会員	盛永 保弘		勤：〒840-0805 佐賀市神野西 2-3-23 T O K A I ビル204 アルファ設計事務所 ☎(0952)33-4728 FAX(0952)33-4870
福岡	正会員	伊藤 誠一	衛生工学	勤：〒812-0011 福岡市博多区博多駅前 2-2-1 福岡センタービル 4 F 日本 E R I (株) ☎(092)432-7030 FAX(092)432-7060
福岡	正会員	松崎 明	建設	勤：〒819-0007 福岡市西区愛宕南 1-1-7 パソコン福岡ビル パシフィックコンサルタンツ(株)九州本社 ☎(092)885-5008 FAX(092)885-5004
福岡	正会員	原田民司郎	建設総合	勤：〒812-0022 福岡市博多区神屋町 4-5 (株)建設環境研究所 ☎(092)271-6600 FAX(092)271-6565
熊本	正会員	加治屋義信	建設総合	連：〒861-0517 熊本県山鹿市大橋通 1-202 ☎(0968)44-6802 FAX(0968)44-6802
福岡	正会員	満安 政幸	上下水道	連：〒816-0983 大野城市月の浦 1-17-1 月の浦サンリャン 201 ☎(092)595-6473
福岡	正会員	竹下 哲也		連：〒815-0073 福岡市南区大池 1-1-52野間宿舍 1-11 ☎(092)551-3731 勤：九州地方整備局企画部企画課 ☎(092)471-6331 FAX(092)476-3472
熊本	準会員	鈴木 哲也	農業	連：〒862-0935 熊本市御領 4-3-87-202
長崎	準会員	井手 淳一	建設	連：〒817-0032 長崎県対馬市厳原町久田527-1 第5アパート 2 ☎(0920)52-3778 勤：〒817-8520 長崎県対馬市厳原町宮谷224 長崎県対馬支庁道路課 ☎(0920)52-1311
北九州	正会員	佐藤 秀輝	建設総合	勤：〒812-0007 福岡市博多区東比恵 3-5-2 福岡 G I S プラザビル (株)パスコ九州営業所 ☎(092)451-3522 FAX(092)472-5328
北九州	正会員	石丸 勇	建設	勤：〒803-0812 北九州市小倉北区室町 2-11-19有豊ビル 4 F (株)西日本測研社 ☎(093)581-9621 FAX(093)581-9486
大分	正会員	高橋 浩一	建設	勤：〒874-0840 別府市大字鶴見字下田井14-1 別府土木事務所河港砂防課 ☎(0977)67-0215 FAX(0977)67-6483
鹿児島	正会員	箱川 健二	農業	連：〒891-7101 鹿児島県大島郡徳之島町亀津7462 ☎(090)9495-6033 勤：〒891-7101 鹿児島県大島郡徳之島町亀津7216 県合同庁舎内 ☎(0997)82-0376 FAX(0997)81-1023
鹿児島	正会員	河内山 進	農業	連：〒899-5241 鹿児島県始良郡加治木町木田908-1 第2 セレクト加治木102号 ☎(090)9079-8576 勤：〒899-5212 鹿児島県始良郡加治木町諏訪町 5 アジアプランニング(株)南九州支店 ☎(0995)63-8825 FAX(0995)63-8826
福岡	正会員	佐藤 礼治	建設総合	勤：〒860-0014 熊本市慶徳堀町 1-1 旭ビル 6 F (株)奥村組熊本営業所 ☎(096)352-1887
鹿児島	正会員	濱田 紘	上下水道	勤：〒890-0072 鹿児島市新栄町20-21 (株)南九州プランニング ☎(099)252-5907 FAX(099)258-6277
福岡	正会員	船木 憲治	建設総合	勤：〒810-0022 福岡市中央区薬院 1-13-8 九電不動産ビル 九州高圧コンクリート工業(株) ☎(092)771-3633 FAX(092)714-1625
長崎	正会員	黒瀬 正行	建設	連：〒852-8154 長崎市住吉町 2-26-803 ☎(095)848-7001 FAX(095)848-7001 勤：〒852-8046 長崎市柳谷町 7-22 太平ビル102号 イーエムエスジャパン(株) ☎(095)843-1105 FAX(095)843-1389

御協力いただいている 賛 助 会 員

……………〔福岡〕……………	大和コンサル(株)	九建設計(株)
日本総合コンサルタント(株)九州支店	アジアエンジニアリング(株)	日進コンサルタント(株)
(株)建設環境研究所	……………〔北九州〕……………	ダイエーコンサルタント(株)
(株)唯設計事務所	日本航測(株)	……………〔宮崎〕……………
日本建設コンサルタント(株)九州支店	大村技術士事務所	(株)弓場水工コンサルタント
中央開発(株)九州支社	(株)九州設計事務所	(株)ロードリバーコンサルタント
(株)ダイヤコンサルタント九州支社	九和設計(株)	(株)ケイディエム
日本工営(株)福岡支店	(株)都市開発コンサルタント	(株)親協
昭和地下工業(株)	(株)松尾設計	南日本総合コンサルタント(株)
第一復建(株)	(株)酒見設計	(株)宮崎産業開発
(株)松本組	(株)太平設計	(株)西田技術開発コンサルタント
(株)エスケイエンジニアリング	冷牟田設計コンサルタント(株)	(有)福島測量設計調査事務所
(株)東亜コンサルタント	(株)安川電機	九州工営(株)
(株)福山コンサルタント	(株)中村測建事務所	正栄技術コンサルタント(株)
(株)東京建設コンサルタント九州支店	環境テクノス(株)	(株)東九州コンサルタント
東亜建設技術(株)	……………〔佐賀〕……………	(有)日豊測量設計事務所
東邦地下工機(株)	(株)精工コンサルタント	日測コンサルタント(株)
大成ジオテック(株)	新九州測量設計(株)	(株)水理設計
富洋設計(株)九州支社	西日本総合コンサルタント(株)	(株)ダイワコンサルタント
九州建設コンサルタント(株)福岡支店	日本建設技術(株)	(株)白浜測量設計
(株)サンコンサル	(株)九州構造設計	(株)杉田測量設計コンサルタント
(株)橋梁コンサルタント福岡支社	新栄地研(株)	南興測量設計(株)
(株)アイ・エヌ・エー九州支社	……………〔長崎〕……………	(株)アップス
(株)九州地質コンサルタント	大栄開発(株)	(有)カツキ技術士事務所
(株)タイヨー設計	(株)実光測量設計	(株)共同技術コンサルタント
日鉄鉦コンサルタント(株)九州支店	西日本菱重興産(株)	(株)国土開発コンサルタント
(株)大建	大洋技研(株)	(株)外山測量設計コンサルタント
(株)エム・ケー・コンサルタント	(株)親和テクノ	(株)都城技建コンサルタント
(株)エス・ピー・エンジニアリング	(株)新栄設計事務所	(株)第一テクノコンサルタンツ
新地研工業(株)	……………〔熊本〕……………	……………〔鹿児島〕……………
(株)カミナガ	(株)九州開発エンジニアリング	中央テクノ(株)
平和測量設計(株)	アジアプランニング(株)	朝日開発コンサルタンツ(株)
(株)高崎総合コンサルタント	……………〔大分〕……………	(株)久永コンサルタント
西日本コントラクト(株)	松本技術コンサルタント(株)	コーアツ工業(株)
西鉄シーイーコンサルタント(株)	協同エンジニアリング(株)	大協(株)
町田電気管理・技術士事務所	(株)日建コンサルタント	(株)建設技術コンサルタンツ
日本地研(株)	東亜コンサルタント(株)	
第一設計(株)	九州特殊土木(株)	
九州環境技術研究所	大洋測量設計(株)	
西日本技術開発(株)	九州建設コンサルタント(株)	
(株)富士ピーエス	西日本コンサルタント(株)	
日本技術開発(株)	東洋測量設計(株)	

第4回CPD(A部門)研鑽会

第4回のCPD研鑽会が「自然」をテーマとして下記の通り開かれます。

日時：平成17年1月29日(土) 10:00~17:00

会場：福岡商工会議所(福岡市博多区博多駅前)

研修内容と講師(CPD認定6単位)：

①生命とDNA [A-2]

堀 勝治氏(佐賀短期大学副学長 医博)

②潜熱を利用する気象工学の数例 [A-4]

鈴木 義則氏(九州大学名誉教授 工博)

③気候と植生 [A-2]

山口 和行氏

(勸佐賀県緑化流通センター 事務局長)

④技術士受験の勧め「プラントエンジニアリングと技術士の関わりについて」[A-11]

沼尻 健次氏(技術士[機械、総監・北九州])

参加費：3,000円(当日徴収)

申込み：九州支部宛 FAX(部門、氏名、住所、電話番号記載のこと) (広報委)

会誌“技術士”最近の主要目次

[PE] 技術士9・2004

- ・新しい時代の大学のあり方と技術士の役割/中野雅弘
- ・企業の社会的責任(CSR)と技術者の役割/小林征男
- ・工場の省エネ、省コストに配慮した空調リニューアル計画/安藤政之
- ・未来はドライブレス地下鉄にあり/平島稔・網倉聖紀
- ・AV系デジタル情報家電/渡邊良美
- ・技術士CPD事業の概要とあるべき技術士CPD像のための提案/横田尚哉
- ・異業種交流支援センターの紹介/高張友夫・西森克巳

[PE] 技術士10・2004

- ・国際規格と鉄道/秋田雄志
- ・道徳教育と倫理/前田守一
- ・循環型社会に向けたビジョンと社会の変化の共有/勝畑重明
- ・人獣共通感染症の防疫と安全管理/上野曄男
- ・「日本経済再生のキーワード」-坂村健博士をお招きして/松浦勝博・小林秀次
- ・地盤工学会のG-CPDシステム/岸田隆夫
- ・修習技術者の修習-初期専門能力開発の発展の課題/佐藤国仁

[PE] 技術士11・2004

- ・社会の価値観に追従する技術/北原文夫
- ・内部告発/福本宗樹
- ・自動車のリサイクル-廃車処理とリサイクル技術/馬縹宏・渡辺孫也
- ・森林セラピー/下山晴平
- ・産官学連携による建設汚泥・ヘドロの新しい再資源化工法の推進/石井知征
- ・学会と日本技術士会の初期技術者教育/坂本恵一
- ・エネルギー開発センターの紹介/岡野庄太郎

編集後記

今年もあと半月で終ろうとしています。この一年を振り返りますとイチロー選手の大記録達成、アテネオリンピックでの活躍など希望と感動を与えてくれた年でありましたが、一方では例年になく多くの台風上陸、新潟県中越地震、テロ続発、児童・家族内の殺傷事件、集団自殺等々日本中を震撼させる出来事が多発しました。

さまざまな面で「絆」がほころびはじめているような気がしてなりません。

技術士会九州支部に目を向けると、「第2ステップCPD活動」、「青年技術士部会の発足、始動」等新しい動きがはじまりました。

また、この『技術士だより』でも「修習技術者の声」「知恵の窓」などのコーナーを新しく設けました。これからも、会員皆様からの積極的なご意見をもとに心待ちにされる『技術士だより』をお届けしていきたいと考えております。

皆様、よいお年をお迎えください。

(棚町)

発行：(株)日本技術士会九州支部

九州技術士センター

〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街7-1

(シック博多駅前ビル204)

九州支部： ☎(092)432-4441

FAX(092)432-4442

E-mail：engineer@joho-fukuoka.or.jp

九州支部ホームページ URL：

http://www.joho-fukuoka.or.jp/kigyo/engineer

センター： ☎ / FAX(092)432-4443

印刷：(株)川島弘文社